



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

平成29年1月20日

岡山市長 大森雅夫 様

フリガナ「ソバダイキイキ」ジッコウインカイ
団体名 「ソバダイキイキ」実行委員会

所在地

連絡先

フリガナ

代表者氏名

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	耕作放棄地活用で小さな6次産業化による新たな特産品作り
事業実施小学校区・地区	牧石小学校区(牧石、玉柏地区) + 御津小学校区(草生地区)
事業実施回数	新規 継続 5回目 / 【平成25年度下期から】
課題	大規模集積化の不可能な中山間地の耕作放棄地を再生・活用する為には、6次産業化が絶対条件になる。このエリアに住む移住者も農業がしたいという思いの強い人が多い。しかし、圃場条件は大規模集積化を阻む段差のある棚田状であるため、1反2反に分かれている。ゆえに、機械化もままならず主たる収入の柱に農業を据えるわけにはいかない。 一方、就労支援施設における生産物は、一般的な値段よりなぜか安く販売されることが多く、独立した個人として十分な生計を営む為には、公的補助をたしても十分ではない。これら社会課題を解決するミッシングリンクを地域発の特産品で何とかする為の取り組みは、5年目の我々の課題である。
事業の目的	小さな6次産業(1次:耕作放棄を再生して大麦・ソバの2毛作×2次:収穫物を小さな設備で製粉+大麦クッキーなどを生産×3次:高付加価値商品として販売)を立ち上げて、無農薬・無化学肥料・アレルギーフリーな商品を販売していく。この立ち上げに関して大きなヒントを与えてくれたのは、NPO法人ネットワークを通して「食物アレルギー支援物資」として、我々が栽培している自然農大麦が被災地の支援に役立つことを教えてくれた昨年度の活動実績にある。(注:先の熊本・大分震災に於いて、我々の大麦粉を使った大麦クッキーは、阿蘇の一般社団法人TAO塾経由で食物アレルギーの子どもたちに配布され、地元紙にも取り上げられた。)定常的こうした支援を準備する為にも、東日本大震災後、岡山に移住してきてくれた人々と自然農大麦関連商品を様々に試作、試し販売を行い、拡大可能性を探っていきたい。

事業の内容	・地域内の耕作放棄地で大麦栽培希望者に大麦の種を播種してもらい、300kg目指して栽培する。 ・収穫後、製粉→委託加工を提携した就労支援施設にお願いして大麦クッキー等を試作する。 ・対面販売が可能な小規模自然食品店や薬局で販売できるよう原材料表示・栄養成分表示・アレルギー表示等を公的分析機関に依頼し、安心安全なおやつとして、また、オンリーワン商品として高付加価値商品に作りこみをしていく。 ・6次化のすべての情報を開示し、同様の横展開が可能になるようホームページを開設。さらに商品購入者に安全・安心な食べ物であることを理解・納得してもらう。そして同様のチャレンジャーを発掘する。 ・公民館などで地産地消セミナーを実施し、活動の告知を参加者の口コミを通じて活動エリアに浸透させていく。
期待される成果・目標	我々が立ち上げをめざしている小さな6次産業は、極端に言えば数人の結束と数十万円の資金でだれでもが実践できるビジネスモデルの構築である。地域の宝である耕作放棄地を活用して「半農半エックス」ライフスタイルを心地よいと感じる人が参加できる地域活動である。 規模の論理に制約されない価値（ex. 自然環境に配慮して農薬・化学肥料を使わないアレルギーフリー農産品をもとにした食べ物の供給）を次の世代に伝えていくために、美味しく健康的な食べ物を、いまの市場においても十分に売れるように作りこんでいく。そして3年後には大麦商品群で10品程度の北区特産商品売り場をマーケットに提案していく。 その結果、小さな6次産業化グループが地域発の産品でもって自立的に活動できるビジネスモデルとして社会的に認知される状況を確認していきたい。
企画などの工夫	気候変動の影響を受けやすいソバ・大麦の栽培を続けた結果、12月に播種する大麦は、比較的安定的な収穫が期待できるという実績を得ることができた。東日本大震災以降にこのエリアに移住してきた新規会員との協働で自然農大麦粉を利用した「アレルギーフリー食品」というコンセプトで、すでに数品のレシピを開発している。つまり、今回以降、小さな6次産業化の要である販売ルートの開発に力点を移行していく。また、参入障壁をできるだけ低くした「地域づくり」=[小さなビジネスモデル]として、さらに新たなメンバーの発掘を行っていく。
協働する団体等	①大自然のめぐみ料理 Mojiro の■■■■は、笠井山中腹の薬師院境内でお店を営業している。周辺の耕作放棄地で我々同様、ソバと大麦の栽培を昨年より始めている。 ②自然食品店「らんらん亭」の■■■■店長は、県内の零細な生産者の活動を応援していく姿勢で商品選定をしている。無農薬・無化学肥料・アレルギーフリーの我々の商品にも必ずや売り場を貸してくれるものと思われる。
事業の情報公開	昨年同様、御津公民館で「夏休みこどもフリー塾」や地産地消セミナーを開催し、活動内容を告知させていただく。 栽培情報、製粉過程、製造工程などの情報を SNS やホームページを通じてオープンにしてい

学区・地区への広がり	※小学校区・地区より狭い範囲（単位町内会等）での事業を実施される場合は、学区・地区等への活動の広がりや課題の共有などをどのように進めていきますか。取組方について記載してください。
前年度からの見直し・拡充点	第一段階では、大麦・ソバの耕作放棄地での栽培適性を見極めようと努力してきた。気候変動の影響を受けやすい夏のソバ栽培は、収穫にむらがあることがわかった。今年度からは、特産品作りに歩みを進めるが、自然農大麦を使った「アレルギーフリー」「オーガニック」といった商品コンセプトを持った商品開発と、就労支援施設のプラスになる生産委託事業をこの会の全員一致の方向性としてその実現に取り組む。三年以内を目標に、この事業の独立を確立していきたい。
次年度以降の予定	※今年度の事業を受けて次年度以後どのように活動を展開していくか、また資金の確保をどのように進めていくかをご記入ください。 ①次年度以後の活動計画 特産品作りは、販売ルートを確認してこそ計画が前進する。逆にいえば、いくら良い「もの作り」をしても販売ルートに乗らないものは市場性がないといわなければならない。栽培が軌道に乗りつつある大麦を柱に「薬店ルート」「自然食品店ルート」を開発していく。 ②資金の確保について ☐次年度も区づくり推進事業を申請する予定 ☒（３）年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 資金確保の具体的な方策： 川下戦略を展開して、３年後には１０００万の販売目標を達成したいと思っている。６次産業化における各セクションを担当する人たちの採算性を確保する為に「有限責任事業組合」を組織し、全体の納得性を高めたビジネスモデルとして、あくまでも利他的優先順位を指針とし、就労支援施設の支援を中心にすえた事業組合運営をめざす。
その他PRしたい点	

事業スケジュール (企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。)

月日	活動内容
4月	ソバでイキイキ実行委員会新年度打ち合わせ。 自然農大麦利用食品の販売先の情報収集。 大麦刈り取りに関する生育状況の確認と作業段取りの決定。
5月	草生圃場の大麦収穫及び脱穀作業。操山圃場の収穫手伝い。 大麦粉利用食品の試作及びテスト販売の評価。 管理地周辺の草刈作業。
6月	夏休み「ソバの種まき農業イベント」に関する関係各所との打ち合わせ。 公民館便りへの参加募集要項決定。 大麦のノギ取り作業、唐箕掛け作業。
7月	大麦利用促進商品群のデザイン案作成及び評価。 「自産自消セミナー」の内容決定。 草生圃場の草刈作業+牧山の草刈ボランティア作業。
8月	ソバの秋播きに向けた草刈作業の開始。 草生圃場でのトラクター掛け作業の開始。 「夏休みソバの種まきセミナー」「大麦粉を使った自産自消セミナー」開催。
9月	8月セミナーの反省会。 地産地消イベントの企画会議。 苗の土寄せ作業開始。
10月	ソバの収穫体験セミナーの準備 親子蕎麦打ち体験セミナーの開催準備 圃場周辺の草刈作業
11月	秋ソバの収穫体験セミナーの開催 はぜ干し作業開始 脱穀作業開始 唐箕掛け作業の開始
12月	年度内活動報告書の作成・総括理事会開催 来期活動実施場所の検討・決定 竹林整備事業開始&竹チップ堆肥の散布 大麦粉ソバ粉を使った「自産自消セミナー」開催打ち合わせ
1月	「自産自消セミナー」共催団体との打ち合わせ 町内会、婦人会、子ども会等へのチラシ配布 新年度活動方針の決定 大麦粉の自家製粉及び来期生産計画および販売計画の作成
2月	大麦粉ソバ粉を使った「自産自消セミナー」開催
3月	自産自消セミナーの反省会 市役所への事業結果の報告

収 支 予 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	前年度決算 (決算見込可)	予 算	備 考
岡山市補助金	73, 000	140, 000	(100 円未満の端数切捨て)
実施団体負担金	74, 800	141, 400	
参加者負担金			
協賛金			
寄付、他収入			
計	147, 800	281, 400	

◆ 支 出

単位:円

費 目	前年度決算	予 算	備 考
①消耗品費	53, 500	53, 000	プリンターインク代等
②食料費	7, 800	8, 000	会員打ち合わせ用お茶代
③燃料費	25, 000	30, 000	農機具燃料費
④通信運搬費	8, 500	16, 400	セミナー案内
⑤広告料	0	10, 000	HP 作成代
⑥使用料	2, 000	0	
⑦原材料費	16, 000	60, 000	セミナー・種代
⑧委託料	10, 000	74, 000	本命商品の成分分析、アレルギー分析
⑨報償費	25, 000	10, 000	講師料
⑩保険料		20, 000	本命商品の PL 保険料
計	147, 800	281, 400	

◆概算交付の要否(いずれかに○をしてください)。(補助金額が20万円を超える場合のみ)

補助金の概算払いを	希望する	・ ○	希望しない
-----------	------	-----	-------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください

注①：前年度決算額が確定していない場合は、見込み額を記入してください。

注②：支出の費目は、消耗品費・食糧費・印刷製本費・旅費交通費・通信運搬費・謝礼金・会場使用料・保険料など適当な費目に分けて記入し、備考に積算内訳を記載してください。

※記入欄に書ききれないときは、別紙として添付してください。